

multiple な lesion がかなりよく描き出されるように思われます。この点, Angiography, Asrstudy などではつかまりにくいので、シンチグラフィの意義があると思います。

質問: 松本 皓(岡山大学 脳外科)

I. Brain Scan の検討に対して

metastatic tumor での陽性像が高率であるとのことですが、原発の種類は何か多いでしょうか。胃癌では Metastasis はむしろ, leptomeningeal carcinomatosis として来るものが多いといわれているが、この場合はいかがでしょうか。

II. Subdural hematoma の症例について

両側性のものはいずれも negative, 片側性のものは positive とのことでしたが、この点どのようにお考えでしょうか。

hematoma の場合, capsul の血管による uptake がその陽性像の原因とされていますが、このためスキャンの時期により成績がかわるとも思いますが。

答:

I. Metastatic tumor の内容は肺癌, 胃癌, 結腸直腸癌, それに絨毛上皮腫等でした。

Adenocarcinoma の meningeal metastasis の経験はありません。

II. われわれの症例は片側性のもので陽性をみましたが、AP 像のみに左右差の uptake の差としあらわれているので、特に capsul の新生血管のためと考えるよりまわりの BBB の破壊によるものと考えています。

発生時期と陽性率との検討は行なっていません。

*

7. 脳シンチフォトにて陽性像を呈した

Chromocytosis の1例

鈴木健二 松本 皓 菅谷広司
(岡山大学 脳神経外科)

最近私達は本邦ではまれな疾患である、題蓋内クロモマイコーシスの1例を経験し、本症例において、脳シンチグラフィによる診断が、気脳写、脳血管写に比して有用であり、手術への決定を下して、幸いにも外科的に全摘出しえた。

頭蓋内クロモマイコーシスの症例は本邦では5例にすぎず、全例剖検にて診断が下されている。

脳シンチグラフィによる頭蓋内炎症性疾患、特に abscess の診断はかなりよく、最近では Herpes simplex

encephalitis の診断された例が報告され、その他 Sarcoidosis, Meningitis の診断例も報告されている。

*

8. シンチカメラによる後頭蓋窩腫瘍の診断

松本 皓 鈴木健二 西本 詮
(岡山大学 脳神経外科)

1968年11月より本年3月までに施行された脳シンチフォト中、手術により組織像の確認された後頭蓋窩腫瘍は27例であった。これらについて、なかでも8例の聴神経鞘腫に関し、シンチカメラの有用性を述べた。聴神経鞘腫は、Hg-neohydrin よりも ^{99m}Tc -pertechnetate により高率に陽性像がえられ、また、その診断率は、腫瘍中の cyst の大小よりも腫瘍全体としての大きさが問題となり、直径 2 cm 以上のものでは診断可能と考えられた。また、聴神経鞘腫中、頭蓋断層撮影にて内耳道の拡大を示さないものが約10%あるといわれ、これらについては、小脳腫瘍との鑑別が重要で、この際 ^{99m}Tc による脳シンチグラフィがまず第1に行なうべき補助診断法であると考えた。

質問: 児玉 求(広島大学 第2外科)

(1) 後頭蓋窩腫瘍診断、特に小脳第4脳室腫瘍検出時に、唾液腺、甲状腺が邪魔になることがあります。その対策をいかにとっておられますか。

*

9. 小児気管支喘息における肺スキャンの経験

鶴海良彦 樋口武彦 岸川 高
西谷 弘
(広島日赤病院 放射線科)
海田智行
(同上 小児科)

小児気管支喘息患児は、発作中に、種々の肺機能検査を行なうことは、患者の協力をえられず非常に難しい。肺シンチは、肺の局所循環障害を検査するには優れた検査法である。

現在、小児気管支喘息の診断に肺シンチグラムが利用されているが、本院でも昨年末、Nuclear Chicago 製シンチカメラが設備されたのを機会に、喘息患児の肺シンチグラム検査を行ない、若干の知見をえたので症例を